

1. 生徒用資料解説

写真資料について

池田町三所神社の川崎獅子太鼓と徳島市阿波踊り会館の阿波踊り

川崎獅子太鼓とは、地域の豊作を祝い、また厄病退散の祈願をこめて、獅子舞を奉納する伝統行事。

阿波おどり会館は、「徳島を訪れる観光客のみなさんに、一年中をとおして「阿波おどり」にふれていただくとともに楽しんでいただくための施設」。(同館ホームページより引用)。

<補足解説>

阿波おどりが、季節限定的な地域のお祭りから脱皮し、年間を通じて提供される観光資源として成立するうえで、本会館は重要な役割を果たしている。

藍染めで製品化された日傘

藍住町歴史館藍の館は、「旧屋敷・奥村家文書・藍関係民俗資料(国指定)の恒久的保存と学術的利用をはじめ、藍の専門博物館として阿波藍の知識を普及するとともに、藍の生活文化の創造と藍の情報センターとしての役割を担っている」(同館ホームページより引用)。

藍染体験

写真は、カナダで草木染めをされている方が、本藍染め矢野工場の藍建て勉強会に参加された時の様子です。

昭和南海地震最高潮位標識と津波十訓

1996年、海部郡海陽町海南庁舎浅川出張所前広場に、昭和南海地震「震災後50年南海道地震津波史碑」と「津波十訓」の碑が設置された。地域住民が次世代の人々に託したい思いやメッセージが、端的なことばで記されている。南海地震の実態を知るのに有益な徳島県の地震・津波碑は、下のホームページが参考になる。

http://www.jishin.go.jp/main/bosai/kyoiku-shien/13tokushima/material/tksm_22_3.pdf

<補助解説>

「津波十訓」には、以下の10項目が刻まれている。

- 1 南海地震津波の最高潮位標識をみよ。それより高い津波もあることに注意せよ。
- 2 非常時の最小限の持出品の準備を日頃よりおこたるな。
- 3 わが家の緊急時の避難道、避難場所を日頃より定めておけ。
- 4 携帯ラジオ等を常備し、停電時でも正確な情報を知れ。デマにまどわされるな。
- 5 真剣に防災訓練に参加せよ。日頃の訓練、それが緊急時にわが身を救うと心得よ。
- 6 「津波警報」ができれば、直ちに近くの高い所に避難せよ。もし、津波が来なかったら幸

いと思え。

- 7 大地震のあと、直ちに津波が来襲すると思え。津波の来襲前に海水は必ずひくとは限らない。
- 8 大地震のあと、車で防潮堤外の埋立地に入るな。門扉が閉じられ、車も命もなくすことがあることを知れ。
- 9 津波は必ず数回やってくる。避難後、警報が解除されるまで避難所で待機せよ。命より大切なものはない。
- 10 沖で地震を感じたら、直ちに湾外の深いところへ船を移動せよ。湾内では直ちに下船し緊急避難せよ。

徳島県立城南高校の「野球発祥校」の碑

1898年（明治31年）、当時の徳島中学校（現在の徳島県立城南高等学校）に徳島県で初めての野球部が創られた。1998年（平成10年）年には創設100周年を迎え、同校の地に「野球発祥校」の記念碑が立てられた。

<補助解説>

「野球発祥校」記念碑には、以下の内容が刻まれている。

明治三十一年／

わが校に野球部が／創られた／徳島縣における／野球の始まりである／

創部時の野球部歌

春は花映ゆ朝ぼらけ／ノックの響き雲破り／秋は月照る夕まぐれ／ボールの光我にあり
炎熱互寒惨憺の／苦心を積みし／歳月や／

徳島中学校／第一高等学校／城南高等学校／野球部／

創部百周年記念碑／平成十年四月／野球部後援会長／布川隆美 書

神山アーティスト・イン・レジデンス

「神山アーティスト・イン・レジデンス」とは、「神山町のNPOグリーンバレーを中心に、1999年からスタートした国際的なアート・プロジェクト」。「毎年8月末から2ヶ月間、日本国内および海外から3名のアーティストが神山町に滞在。作品を制作し、10月下旬に展覧会を開きます」（同企画ホームページより引用）。

<補助解説>

本企画の特色は、国内外から招聘された芸術家が、神山という環境で生活し、作品へのイメージを膨らましつつ、地元住民との交流を通して作品を制作していること。作品は地元で展示されており、地域の環境に溶け込んだオブジェともなっている。

マチ★アソビの来訪者数の変化

「マチ★アソビ」とは、「徳島をアソビ尽くす」ことを目的とした複合エンターテイメントイベント。「徳島のシンボルである眉山山頂や、新町川沿いにある“しんまちボードウォーク”，阿波おどり会館やポッポ街，徳島駅周辺を巻き込み，各エンターテイメント関連会社や人気声優が一堂に会し，さまざまなイベントや展示が行われる一大イベン

ト」(同企画ホームページより引用)。

<補助解説>

2009年10月に始まり、既に15回開催された(2015年現在)。地域の活性化とアニメイベントを結び付けて観光産業化した「アニメツーリズム」の成功例として注目される。第7回より、若手アニメーターやアニメ産業の育成に関心を寄せる文化庁も後援している。

2. 授業の目標と授業過程

(1) 授業の目標

<重点目標B>

- 「あわ文化」の取組を事例に、文化が継承されるための理由・条件を説明できる。
- 「あわ文化」の取組を事例に、文化を発信していくための手段・方法を説明できる。

<重点目標D>

- 「あわ文化」を主体的に評価・創造し、次世代に伝承していくためのプランを提言しようとしている。

(2) 授業過程

<導入>

- ・ 徳島の魅力ってなんですか。次のなかから1つ選んで、その魅力を語ろう。
→ 例：阿波おどり、うだつの町並み、藍染め、人形浄瑠璃、ベートーベン「第九」、マチ★アソビ、神山アーティスト・イン・レジデンス、地元のお祭りのX、地元の特産品のY(教師の判断で適宜加えてよい)
- ・ あなたの選んだ「お勧め・あわ文化」は、30年後(あなたが44歳の頃)どうなっているだろうか。予想して発表しよう。
→ 「Aの30年後は……なっていると思います。なぜなら……だからです」の形式で。

【本時の中心的な学習課題】

- ◎ あなたの「お勧め・あわ文化」が30年後にも生き残るための作戦を立てよう。

<展開1>

- 長く受け継がれてきた文化には、どのような秘密が隠されているのだろう？ 文化継承の条件を予想しよう。
 - ・ 藍染め体験の写真を見て、気づくことを指摘しなさい。伝統的な藍染め製品と現代的な藍染め製品を比べて、違いを書き出そう。
 - ・ なぜ傘やコースター、Tシャツの藍染め製品が生まれたのだろう。
 - ・ 池田町三所神社の川崎獅子太鼓と徳島市阿波踊り会館の阿波踊りのようすの写真を見て、気づくことを指摘しなさい。例えば、次の視点から2つの催しを比較しよう。
例：目的、開催の時期や場所、参加者の人数や住所、催しの規模、会場へのアクセ

スなど。

- ・なぜ1年を通じて阿波おどりを楽しむことができるようにしたのだろうか。あなたはそれに賛成ですか、反対ですか。

- 長く受け継がれてきた文化には、どのような秘密が隠されているのだろうか？

文化継承の条件を、①地域の自然や日常生活との結びつきに加えて、②社会の変化に応じた伝統的な芸能・物産の観光化、商品化、③活動の場の提供や経済的な支援、これらの視点から説明できる。

<展開2>

- 後世に文化を伝えていくためには、どのような戦略が必要だろう？ 文化発信の手立てを考えよう。

- ・最高潮位標識と津波十訓の写真には、何が記されているか。読み取りなさい。住民はどのような思いでそれをつくったのだろうか。

- ・徳島県立城南高校の「野球発祥校」の碑の写真には、何と記されているだろう。いつ、だれが、なんのためにつくったのだろうか。

- ・あなたの学校や市町村に残された記念碑や鎮魂碑、博物館を探してみましょう。私たちは、どういうときに「碑」や「館」を作ったり、訪ねたりするだろうか。

- ・マチ★アソビ（グラフ）や神山アーティスト・イン・レジデンス（写真）とは、どんなイベントだろう。2つを比較して、似たところを書き出そう。

- ・なぜこれらのイベントに、県内外からたくさんの人々が訪れるのだろうか。

- 後世に文化を伝えていくためには、どんな戦略が必要だろう？

文化発信の方法を、①担い手の育成に加えて、②了承したい記憶を記録にとどめ、その記録を共有・発信できるように公の場に展示する、③地域の自然や歴史を生かし、住民や企業等が助け合って、その土地らしいイベントを運営する、これらの視点から説明できる。

<終結>

◎（学習の成果を踏まえて）

あなたの「お勧め・あわ文化」が30年後にも生き残るための作戦を立てよう。

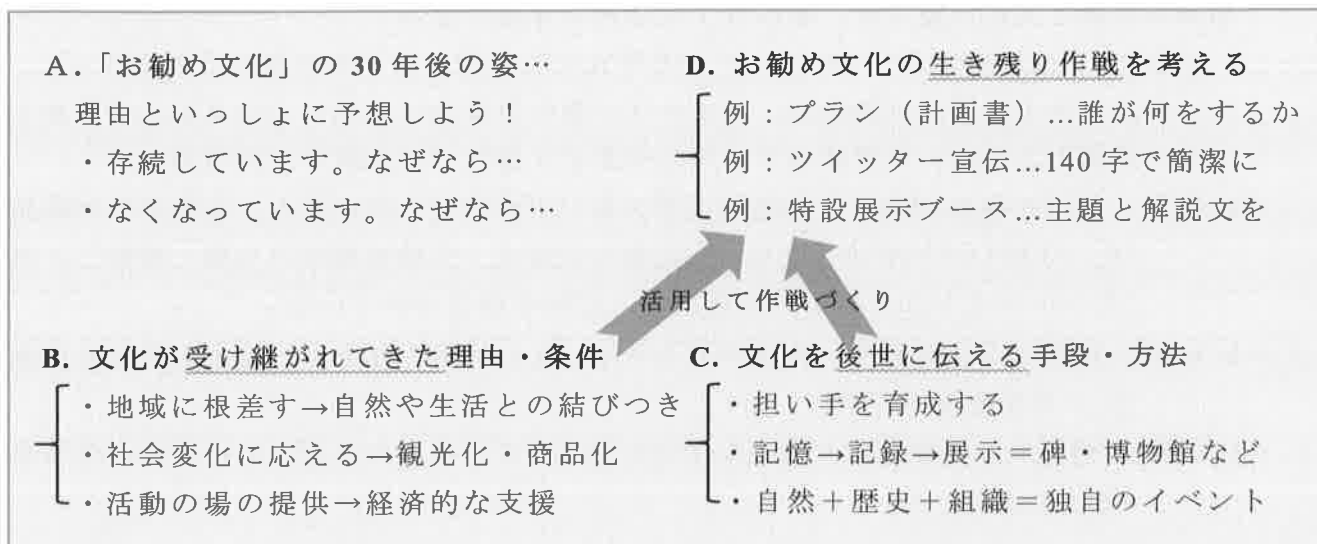
- 例えば、以下のような表現活動が考えられる。生徒の実態や使える時間数、学校の経営目標などを考慮して決定することが望まれる。

- ・作戦①： ツイッター発で全国の人たちに、「お勧め・あわ文化」を紹介しよう。140字でコンパクトな宣伝メッセージをつくろう。（易）

- ・作戦②： 学芸員または知事になったつもりで、私の「お勧め・あわ文化」の推薦文または推薦ポスター（写真や絵入り）を書こう。（並）

- ・作戦③： 学校の図書室や地域の公民館に私の「お勧め・あわ文化」特設展示ブースをつくろう。どのようなテーマを設定し、どのような素材を選び、素材をどのように組み合わせ、どのような解説パネルといっしょに展示するとよいか。ブースのデザイン案を描こう。（難）

3. 板書計画



4. 発展的教材研究のための資料

文化の継承について理解を深めるためには、以下の専門書が参考になる。

- 阿部安成，見市雅俊，森村敏己，小関隆，光永雅明『記憶のかたち－コメモレイションの文化史－』柏書房，1999年。
- 片桐 雅隆『過去と記憶の社会学－自己論からの展開－』世界思想社，2003年。
- 矢口祐人，中山京子，森茂岳雄『真珠湾を語る：歴史・記憶・教育』東京大学出版会，2011年。
- 若尾祐司，羽賀祥二『記録と記憶の比較文化史－史誌・記念碑・郷土－』名古屋大学出版会，2005年。
- 若尾祐司，和田光弘『歴史の場－史跡・記念碑・記憶－』ミネルヴァ書房，2010年。
- A.ヘンダーソン，松本栄寿・小浜清子訳『スミソニアンは何を展示してきたか』玉川大学出版部，2003年。

5. 評価規準の設定と評価方法

<重点目標B>

世界や日本の中における徳島の伝統と文化について思考し、公正に判断する。

「なぜ「あわ文化」は長く継承されてきたのでしょうか。どのようにすれば「あわ文化」を後世に継承していけるのでしょうか？ 具体例を挙げて説明しなさい」。

この課題に対する答え（説明文）を評価する。

- A 水準：①自然や生活に密着，②観光化や商品化，③担い手の育成・支援，④記憶の記録化，⑤関係機関の協働・連携などのなかから3つ以上の視点を用いて，徳島の取組を説明できている。
- B 水準：Aに例示された1つ以上の視点を用いて，徳島の取組を説明できている。
- C 水準：Aに例示された視点を用いて，徳島の具体的な取組を説明できていない。

<重点目標D>

徳島の伝統と文化の魅力を、県内外で主体的に発信できる。

「あなたの「お勧め・あわ文化」が、30年後に生き残るための作戦を立てよう」。

この課題に対する答え（例えば、ツイッター発の宣伝メッセージ、知事からの推薦文または推薦ポスター、特設展示ブースのデザイン案などの作品）を評価する。

- A 水準： 徳島の文化の継承・創造のプランを、①自然や生活に密着，②観光化や商品化，③担い手の育成・支援，④記憶の記録化，⑤関係機関の協働・連携などのなかから 3つ以上の視点を根拠に，作戦を提言できている。
- B 水準： 徳島の文化の継承・創造のプランを，A に例示された 1つ以上の視点を根拠に，作戦を提言できている。
- C 水準： 徳島の文化の継承・創造のプランを，A に例示された視点を根拠に，作戦を提言できていない。

※ 生徒用テキストのデータの出典

写真 池田町三所神社の川崎獅子太鼓と

<http://gurutabi.gnavi.co.jp/event/item/129358/>

写真 徳島市阿波踊り会館の阿波踊り

<http://www.city.tokushima.tokushima.jp/kankou/kankoushitsu/awaodorikaikan.html>

写真 矢野工場での藍染め体験

<http://livedoor.blogimg.jp/honaizomeyanokozyo/imgs/9/3/93d1241c.jpg>

写真 藍染めで製品化された日傘

<http://aizome-tokushima.jp/?pid=73281280>

写真 昭和南海地震津波の最高潮位標識と津波十訓（海部郡海陽町）

<http://anshin.pref.tokushima.jp/docs/2012082900114/>

写真 徳島県立城南高校の「野球発祥校」の碑

<http://hamadayori.com/hass-col/sports/YakyuHasshoKo.html>

写真 神山アーティスト・イン・レジデンス

<http://www.in-kamiyama.jp/art/kair/top/279/>

図 マチ★アソビの来訪者数の変化

（資料：徳島県商工労働部観光国際局にぎわいづくり課調べ）